

## 2022年 立教新座 算数（第1回）

各年の思考コード別出題割合は次のようになります。論理的思考力・応用力が求められる思考コード B の問題を中心として、知識・技術の再現力が求められる思考コード A の問題が出題されます。2022 年は、B3 の出題が減り、A2 の出題が増えています。しかしながら、例年同様、骨太な問題が出題されているため、気が抜けない 50 分だったと思います。応用的な問題の出題が多く、比を自在に使いこなす力、もれや重複なく調べ上げる力が求められます。50 分で解き切るのは非常にハードで、問題の取舍選択が重要となります。



大問 1 は、昨年と同じく、計算、一行題の構成でした。(2)は比の整理がしづらく、また、(4)②は補助線の位置がとらえづらいため、ここでつまずいた受験生が多かったと思います。後回しにしてよいと思います。大問 2 は、立教新座でよく出題される三角形の面積比を利用した問題でした。高さが等しい三角形に注目して、面積比を求めていきます。(3)、(4)で差がついたと思います。大問 3 は、水そうにおもりを沈める問題でした。(1)、(2)は、取っておきたい問題です。(3)、(4)で差がついたと思います。水そうを正面から見た図に置きかえて、水そうに入っている水の量をとらえることが大切です。(4)は、仕切りの左右に残っている水を直角二等辺三角形にしてとらえることがポイントです。大問 4 も、立教新座でよく出題される仕事算でした。(1)、(2)は、取っておきたい問題です。消去算を利用することがポイントでした。(4)は、不定方程式を利用した問題でした。類題を経験したことがある受験生も多く、比較的方针が立てやすい問題と言えます。大問 5 も、立教新座でよく出題される数に関する調べる問題でした。(1)は、取っておきたい問題です。(2)から難度が上がってきます。(3)までは取り組んでおき、(4)は見送ってもよい問題でした。

例年通り、高い応用力が求められる問題構成でした。そのため、確実に得点しておきたい問題を落としてしまうと、大きな差が生まれてしまいます。比の利用、相似な三角形、数の性質、立体など、頻出分野があるため、過去問に取り組んでおくことは、非常に有効であると言えます。あくまでも予想ですが、大問 1 (2)、(4)②、大問 3(4)、大問 4(4)、大問 5(3)、(4)が取れなかったとしても、およそ 7 割には達することができると考えられます。